

国道289号八十里・県境初越え記念

子ども交流イベント

国道289号八十里越地
点開発促進期成同盟会（会
長・國定勇人三条市長）の
主催により、7月26日に国
道289号八十里越の県境
で「子ども交流イベント」
が行われました。

参加した小学生は、只見
町内の只見小学校と朝日小
学校の児童15名と、新潟県
三条市立森町小学校の児童
で、國定三条市長及び目黒
町長があいさつをした後、



▲交流を深めた只見町と三条市の小学生

森町小学校の石澤菜々子さ
ん（6年）が「三条市はた
くさんいいところがありま
す。只見町のいいところも
探したいです。福島県が近
くなるので、みんなと仲良
くなれるよう交流したいで
す」とあいさつし、次に只
見小学校の新國潤平くん
（6年）が「この道路がで
きることで新潟県が近くに
り便利になると思います。
また、只見町と三条市の交
流がさらに深まるといいと
思います」とあいさつしま
した。

続いて、目黒町長や國定
三条市長と参加した小学生
全員が並んでテープカット
が行われ、只見町と三条市
の交流が活発になることを
願いました。また、小学生
には「八十里越道路県境初
越え証明書」が手渡され、
福島県側から第7号橋梁
（仮橋）を新潟県側にわた
り、県境の初越えを体験し
ました。その後、只見町の
小学生は森町小学校を訪
れ、学校自慢大会などで盛
り上がり、交流を深めまし
た。

真夏の挑戦ふたたび…

国道289号フルコース踏破



▲元気に県境に到着した只見高校生（4日）

R289フルコース踏破実行
委員会が主体となり、8月4日
から5日の二日間、新潟県から
福島県いわき市までの国道28
9号（総延長325km）を自転
車と一部徒歩でフルコース踏破
するイベントが行われました。

参加したのは只見高等学校の
1年から2年の生徒26名で4名
程度のグループに分かれ、約10
kmを自転車車で走りタスキをつな
ぎました。

一昨年に初めて行われたイベ
ントですが、昨年は豪雨災害の

ため中止、今年は国道289号
の早期全線開通と只見町の復
興、新潟県と福島県の地域交流
が進展することなどの願いを込
め、再び行われました。一日目
は新潟県庁前をスタート、道路
工事中の八十里越県境付近は自
転車を押し徒歩で福島県側に入
り、目黒町長はじめ町民の方が
拍手で出迎えました。只見高校
生代表で馬場瞭さん（2年）が
「坂道が多くとても疲れまし
たが、二日目も頑張ります。この
イベントにより只見町が注目さ
れ活性化してほしい。早く復興
し町が元気になることを願い、
自分たちにできることを頑張り
ます」とあいさつし、残りのコ
ースを自転車車で走り、只見町役
場に夕方、無事到着しました。

二日目は只見町役場をスタ
ート、早朝にもかかわらず沿道か
らは町民の方が声援を送り生徒
を元気づけていました。新潟、
福島両県の至る所で地域の方の
歓迎を受け、26名の生徒は全員
で力を合わせ、予定どおり夕方、
いわき市の勿来の関公園にゴー
ル。高校生とスタッフの皆さん
は全コースを走りきった満足感
と感動を分かち合い、真夏の挑
戦は幕を閉じました。

百歳賀寿

おめでとうございます

酒井トメさん（只見）
が満百歳

8月4日に酒井トメさん
が満百歳の誕生日を迎えら
れ、同日に知事賀寿贈呈式
が自宅で行われました。

はじめに近内保二南会津
保健福祉事務所長から知事
賀寿と長寿を記念しての木
杯が贈られました。続いて、
只見町、町議会、町社会福
祉協議会、町老人クラブ連
合会、只見第三老人クラブ
などから、お祝いの記念品
などが贈られました。また、
お孫さんの酒井見菜子さん
からは、お祝いの花束も手
渡されました。トメさんの
長生きの秘訣は、好き嫌い
なくなんでもよく食べるこ
と。とのことでした。おめ
でとうございます。



▲百歳の酒井トメさん(右)

ただみ・ブナと川のミュージアム

名誉館長「河野昭一」氏と

ブナの天然林を歩く...

自然観察会

8月1日、植物学者の河野昭一（ただみ・ブナと川のミュージアム名誉館長（京都大学名誉教授））を迎え、叶津地区・木ノ根沢のブナの天然林を歩く自然観察会が開かれました。

当日は天候も良く、福島県内外から27名が参加しました。観察地となった叶津川上流にある木ノ根沢のブナの天然林は、普段、一般の立ち入りが制限されており、只見町の中でも自然度の高い貴重なブナ林です。

河野氏は「この木ノ根沢のブナ林は、樹齢が高く梢端が枯れ始めている老木から若木まで、



▲河野昭一氏を囲んでの記念撮影(木ノ根沢ブナ天然林)

と河野氏の柔らかな語り口と穏やかな人柄で、参加者もリラックスしたなか行われました。

河野氏は最後に「このブナの森は只見町の財産であり、後世まできちんと引き継いでいくことが大事。今を生きる私たちにはその責任がある」と述べました。参加者からは「普段入れないブナ林を見ることができてよかった。今度はまた違った季節のブナの森も見てみたい」との声が聞かれ、子どもも大人も雄大な天然のブナ林につつまれ感動した観察会となりました。

様々な樹齢のブナが生育し、森が変化しているというところが特徴です」と説明されました。

昨年は、ブナの実の成り年（豊作年）で、林床にはたくさんさんのブナの実生が発生していました。この実生たちが、いま朽ち果てて行くブナの老木に変わり、この森の次世代を担っていくのかも知れません。観察会は、森の雰囲気

福島市で「自然首都・只見」展開

8月17日から22日に、コラッセふくしま（福島市）で「ユネスコエコパークの登録を目指す自然首都・只見」展が開かれました。

この企画展は、只見の自然と暮らしを町外の方にも知ってもらうことを目的に行われ、只見の四季の自然とそこに生きる動植物たちや、その自然から私たちが受け取っている生物資源（山菜、キノコなど）と伝統工芸（ツル細工など）について、パネルや書籍、現物展示により分かりやすく紹介されました。また、ブナ



只見の自然と暮らしを分かりやすく紹介した展示会場

センター主任指導員の渡部和子さん（楡戸）が「只見の自然と暮らし」をテーマに講演会を同会場で行いました。

来場者からは「只見の自然の姿、食の文化、山暮らしの文化が分かった。話を聞いてよかった」との感想が聞かれました。訪れた方には原発避難者も多く見られ、只見町の豊かな自然を写したパネルを見て「福島県は原発の影響で多くの自然が失われた。その中で、これだけ豊かな自然が残っている只見町には、ぜひこの自然を大切に頑張してほしい」と涙ぐまれる方もいました。また、只見町に行きたいが、交通の便が悪く行けないという意見も聞かれました。

このように町外の方と直接話すことで、改めて只見町の自然や暮らしの豊かさを実感し、さらに町をPRする際の課題も確認できた有意義な企画展となりました。